

潜水艦「もちしお」を引き渡し

(株)川崎造船は神戸工場において、防衛省向け潜水艦「もちしお」の引き渡し式を防衛省関係者ほかの出席のもとに行なった。

「もちしお」は、潜水艦「おやしお」型の11番艦として川崎造船が建造した。船型は優れた水中運動性能と推進性能を持つ葉巻型で、船体には高張力鋼を使用している。また、各種システムの自動化、高性能ソーナー装備による搜索能力の向上、ステルス性能の向上などが図られているとともに、安全対策も十分に施されている。



ガス3社のグリーン機種に選定された吸収冷温水機「シグマエース1.43」シリーズを新発売

川重冷熱工業(株)は、東京ガス(株)、大阪ガス(株)、東邦ガス(株)のガス3社が運営する「吸収式グリーン制度(05基準)」のグリーン機種に選定された高期間効率機「シグマエース1.43」(JIS基準COP1.43)シリーズを新発売した。

この制度は、環境負荷低減の面で優れた機能を持つ吸収式冷温水機を、「グリーン機種」として選定するこれまでの「吸収式グリーン制度」に、さらに厳しい条件を加えたもので、「シグマエース1.43」シリーズはエネルギー環境負荷低減機・高期間効率機として選定された。

吸収冷温水機「シグマエース1.43」シリーズは、定格運転時の効率を向上させるとともに、独自の技術で部分負荷運転時の効率も上げた。そのため、建物や用途などの条件によって部分負荷での運転時間が長くなるケースでも運転効率がよいので期間効率が向上する。また、NOx排出量を従来機に比べて3分の2に低減できる超低NOxバーナを標準装備、冷水圧力損失を同社従来機(1.4シリーズ)に比べて約50%以下に低減したことによる冷水ポンプの消費電力の抑制、などの特長を備えている。



お問い合わせ先 川重冷熱工業(株)東京本社 営業・サービス総括室 営業・サービス管理部 ☎ 03-3615-5821

「787ドリームライナー」向け新工場を建設

川崎重工は、航空機製品の生産・組立工場である名古屋第一工場(愛知県弥富市)の南側に、米ボーイング社と共同開発中の新型旅客機「787ドリームライナー」(以下、「787」)向け専用工場を建設する。「787」向け製品の生産工場は2006年7月に竣工し、すでに生産を開始しているが、「787」の受注が好調なことから、生産能力を増強するために新工場を建設することになった。

川崎重工は、「787」の開発において前部胴体、主脚格納部、主翼固定後縁を担当しており、新工場では既設工場と同種の生産設備を追加導入して前部胴体の増産を行なう予定である。

「787」は200~300席クラスの高効率運航を目指した中型旅客機で、設計の斬新さに伴い、革新的な生産技術が多数導入されている。とりわけ、川崎重工が担当する胴体構造部は



世界で初めて全複合材製の一体成形構造を採用されている。

KPMが建設機械用油圧ポンプの新工場を建設

(株)カワサキプレジションマシナリ(KPM)は、本社工場(神戸市西区)内に建設機械用油圧ポンプの新工場を建設する。また、併せて本社工場を再編し、各種油圧機器の生産能力を増強する。

これは、世界的な建設機械用油圧機器の需要増に対応するためで、2008年4月に着工し、2009年4月からの生産開始を経て2009年6月より本格稼働を開始する予定である。

KPMでは、今回の新工場建設により、今後大幅な需要が見込まれる新型油圧ポンプの生産ラインを新工場に移管するとともに、新たに生産設備を導入し、機械加工から組立・運転に

至る一貫生産を行なう。また、移管に伴う空きスペースにはコントロールバルブの生産ラインを集約し、新たに生産設備を導入するほか、油圧モータやコアパーツについてもそれぞれの工場での生産設備を導入するなど、本社工場全体で生産効率化と設備増強による各種油圧機器の増産を図っていく。KPMでは2007年4月にコアパーツ工場を新設するなどして順次、生産能力の増強を進めているが、今回の増産投資により、国内外の建設機械メーカーをはじめとする顧客からの増産要求に応じていくとしている。



Ninja 250R



D-TRACKER X



KLX250

国内向けのニューモデル3機種を新発売

川崎重工は、国内向けのニューモデル3機種を4月5日に発売した。

●Ninja 250R

上質感漂う本物志向のスポーツスポーツスタイリングを持つモデル。高い環境性能を有する新設計の並列2気筒エンジン(248cm³)を搭載。スポーツ「Ninja」シリーズ譲りの本格的な造りのフルフェアリングを装着した街乗りからスポーツ走行までこなすスタイリッシュな250ccスポーツバイクである。

●D-TRACKER X

幅広いトルクバンドを持つエンジン(249cm³)や高剛性ベリメーターフレーム、前後の17インチオンロードタイヤ装着などにより高い走行性能を誇るモデルとして国内で好評の「D-TRACKER」がベース。そのスタイリングを一新するとともに、最新の環境性能と街乗りに適した走行性能を両立させた軽二輪ストリートスポーツである。

●KLX250

スムーズな吹き上がりをするエンジン(249cm³)や高剛性ベリメーターフレームなどにより、高い走破性を誇る軽二輪デュアルパーパスモデル「KLX250」の環境性能の向上を目的に、フューエルインジェクションを搭載し、さらに、スタイリングを一新した新モデルである。

お問い合わせ先 (株)カワサキモーターズジャパン お客様相談室 ☎ 0120-400-819

ドイツから新開発「M7A-03D」ガスタービン搭載の発電設備を初受注

川崎重工は、欧州のガスタービンの販売・サービス拠点、カワサキ・ガスタービン・ヨーロッパ社(ドイツ・バドホンブルグ市)を通じて、ドイツのムクスビュー製紙のウンターコーヘン工場向け「GPB80D」ガスタービン発電設備を受注した。この発電設備は、川崎重工が新開発した7,000kW級ガスタービン「M7A-03D」を駆動源としており、これは「M7A-03D」の初受注である。

新開発の「M7A-03D」ガスタービンを搭載した「GPB80D」ガスタービン発電設備は、すでに市場で高い評価を得ている「GPB60D」「GPB70D」をベースに開発したもので、「GPB70D」に比べて出力で約10%、熱効率で2.9ポイントの性能アップを達成している。

ムクスビュー製紙は、アーレン電力公社と合弁で、同社のウンターコーヘン工場内における石炭焚きボイラ発電設備を更新し、ガスター

ビン発電設備および排熱回収ボイラで構成するコージェネレーション発電設備を建設する。本設備の導入により、CO₂が約30%(年間3万t)削減される見込みであり、同工場では環境保全に配慮したエネルギー供給システムが構築されることになる。「GPB80D」ガスタービン発電設備の運用開始は2008年9月の予定。

サウジアラビア向けに「天然ガス圧縮機設備」を出荷

川崎重工は、サウジアラビアンオイルカンパニーから受注していた6基の「モータ駆動天然ガス圧縮機設備」を、神戸工場から出荷した。

本設備は、サウジアラビアンオイルカンパニーの子会社、アラムコーパーシーズ社から2007年1月に受注したものである。サウジアラビアンオイルカンパニーでは現在、首都リヤド南部にあるスアイム地区において、2009年中の日量10万バレルへの生産能力増強を目指して、新プラントの設置および既存パイプライン・ポンプステーション

の更新を図っている。本設備は、新設するスアイムガスオイルセパレーションプラントおよび既存のハウスタピライザーユニット内に設置され、天然ガスを圧縮するために使用される。

今回の6基の出荷により、川崎重工のサウジアラビアを含む中東地域向けの圧縮機の納入実績は合計37基となり、全世界では総計231基にのぼる。



川崎重工がアーステクニカを子会社化

川崎重工は(株)神戸製鋼所との合意により、4月1日をもって両社の破砕機事業の合弁会社である(株)アーステクニカの神戸製鋼所保有株式のすべてを譲り受けることになった。

アーステクニカは川崎重工と神戸製鋼所の破砕機事業の営業・設計部門統合会社として2003年7月に営業を開始し、2005年4月には製造部門も統合して現在に至っている。事業

統合後は販売網や製品ラインナップの補完、保有技術の融合による新製品開発、製品ごとの生産集約による効率化などにより事業基盤の強化を進めてきた。同時に、中長期的に成長が期待される資源リサイクルなどの環境関連機器分野において事業の強化・拡大を図ってきた。

川崎重工グループは、中期経営計画

「Global K」(2006年9月策定)に沿い、「エネルギー・環境関連事業」をグループを支える新たな柱として育成している。川崎重工は、アーステクニカをその一翼を担うグループ子会社として位置付け、経営資源を積極的に投入して同社の環境関連機器事業の強化・拡大を加速させていく方針である。